



# 日本威人傳

## Vol.2 小作人 黒田

ある島国に年々収量が落ちている畑があります。以前はそこそこ良い土地だったのですが、地主が無知で土への負荷を考えなかったため、ここ20年ほどでぐんと悪くなって今では砂地なみの疲弊した土地になってしまいました。現在の地主はアベさん、畑ではアベさんのお友達のクロダさんが小作人として働いています。

本当なら全面的な土壌改良工事が必要です。でもアベさんにその気はありません。クロダさんは「疲弊した土地でもケインズ農場と同じ手法なら成功する」と迷信を信じ続けています。

その手法とは、あたり構わず大量の肥料を流し込むこと。足らなければ無制限に流す。そうすればいくら砂地でも肥料がダブついて植物の根っこに届くだろう、という乱暴なもの。実は肥料は砂地の下の黒く澱んだ保水層に溜め込まれ、容易に出てきません。クロダさんはこの事実を知っていて「それでも大丈夫」だそうです。

たしかにここ2年ばかり、ごく薄い肥料が根っこに届いたのか、葉っぱの色が少しだけ良くなりました。葉の色を見てアベさんは「アベノ農業の成果だ」とあちこちで偉そうに言っています。でも肝心の収量は前の年と同じ程度。アベさんは毎年2%ずつ収量を増やすのが目的だそうですが、果たして収穫が増えるのが先か、保水層に溜まった肥料が腐って爆発するのが先か、かなり危ないものです。

さて、米国のジョーカー大統領は、誰に知恵を付けられたのか「あの島国は為替レートを違法に操作している」と叫びました。そりゃそうでしょう。1万円札という肥料を短時間で大量に刷屏増しすれば日本円の価値は下がります。そうなれば相対的に円安になる。経済の基礎で

すね。それをもって「為替操作」と言われれば返す言葉も無い。でもアベもクロダも心外だったはず。ただ物価を2%上げたいだけで、二人とも為替のことなんかちっとも考えてもいなかったのですから。もっとも、2%という数字自体、その根拠はどこにも無いのですけれど。

世界で流通している日本円は100兆円を超えました。GDPの20%程度で世界でも突出した流通量です。5年前には65兆円でしたから、さすが経済大国、5年で40兆円も「お金を作り」、流通量を1.6倍に増やしたわけです。普通これだけ馬鹿なことをすれば物価は上がります。ごくごく単純に考えると物価は2%どころか1.6倍になるはず。ところが経済が砂地の日本では、お金は暗黒保水層にだけ溜まり一般人民には回ってきません。そこで、「あまり金を溜めてると損するぞ」とばかり、クロダはマイナス金利作戦を展開しましたが保水層はびくともせず、一般人の銀行金利が下がって貯金の額が一向に増えなくなりました。

葉っぱの色が良くなった、つまり失業率が下がり求人数が増えたことは喜ばしいこと。ただ就職しても希望溢れる未来があるかといえば、それは請合いかねます。だって経済の土壌・構造は相変わらず砂地と黒い保水層ですから。

1万円札の大乱発、異常な低金利、ここまで勝手に見当違いな思いつき政策を反省もなく続けておいて一体誰が畑を元に戻すのでしょうか。国民が痛い目に遭わずに戻す方法はあるのでしょうか。いずれ暗黒保水層に溜まった肥料が何かのきっかけで大流出を起こし、国民の財産が無価値に転落する可能性は大。もうカラ傘一本背負わせてクロダを追放しても手遅れです。